AWARDS for Social Action

日本ホテル協会
第4回 社会貢献表彰
努力賞

沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ

環境問題を「自分ごと」にするサンゴ再生プロジェクト

温暖化の影響で危機に瀕するサンゴの再生を目指してスタートした「サンゴ教室」。実際にサンゴに触れ、苗の植え付けを体験することで、環境問題を身近なものとして捉え、「自分ができることから始めよう」と考えるきっかけを提供している。

サンゴの白化現象で沖縄の海に危険信号

沖縄の海には、世界に生息するサンゴの半数以上が棲んでいるといわれている。そんな世界に誇る美しいサンゴに異変が起き始めたのは、今から25年ほど前のことだ。グレートバリアリーフから始まった大規模な白化現象が、沖縄県全域でも見られるようになった。白化とは、サンゴと共生する植物プランクトンが海水温の上昇などにより失われ、サンゴが白い骨格だけの状態になること。そのままの状態が続くとサンゴが死滅し、海の生態系が崩れてしまう危険性がある。こうした環境変化に対応するため、2008年を「国際サンゴ礁年」とするなど国際的な取り組みが活発化。これに呼応するようにスタートしたのが、沖縄県恩納村にある沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパの「サンゴ再生プロジェクト」だ。

美しい海を守るために何ができるか、沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパは一人ひとりが考えるきっかけを提供する。

「沖縄の観光は海がメインです。豊かな海洋資源から恩恵を受けている立場として、これまでも海の保全活動に取り組んできましたが、『国際サンゴ礁年』を機にサンゴの保全活動を本格的に始動しました」と、株式会社かりゆし代表取締役社長の玉城智司氏。グループホテルの沖縄かりゆしリゾートEXES恩納とともに、サンゴの絶滅危機を救うために立ち上がった。

見て、触れて、体験する親子で学ぶサンゴ教室

サンゴ再生プロジェクトの柱となっているのは、宿泊客を対象とした「サンゴ教室」だ。

まずは座学でサンゴの生態系について学ぶ。サンゴが生き物であること、サンゴがいることで海の生き物の生活が成り立っていることなどが丁寧に解説される。サンゴについてひと通り知識を得たところで、ガラス張りのグラスボートに乗って海へ。ホテルが運営するかりゆしビーチで、実際にサンゴを観察する。その後、陸上に戻り、サンゴの苗作りを体験する。

「実際にサンゴに触れることで、環境問題について考えていただくきっかけになればと願っています」と話すのは、グループ会社で、マリン事業を行うリゾートエンタープライズ沖縄の林裕子氏。海の様子を観察しながら、サンゴだけでなく、海洋ごみの問題など幅広く環境問題に関する話をする。

参加者によって作られた苗は、後日、地元漁協の協力で海に植えられるが、当初は白化して死滅す

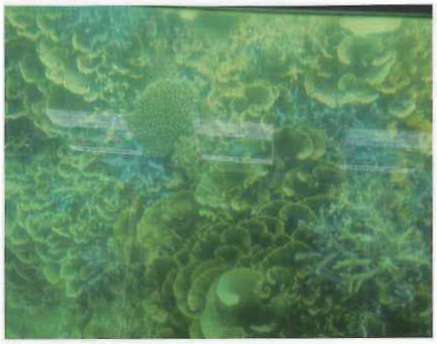
ることが多かった。海水温の上昇やオニヒトデによる食害が主な原因だ。植え付けたサンゴの産卵を初めて確認したのは教室を始めて7年後の2015年のこと。「サンゴを植え付けて増やすのではなく、サンゴが卵を産んで増えていくことを目標としていたので、とてもうれしかったですね」(林氏)。これ以降、毎年サンゴの産卵が確認されているという。

サンゴ教室には親子連れの参加者も多い。「子どもに地球環境のことを教えたい」という親御さんや、初めて見るサンゴに目を輝かせ、「これからはレジ袋をもらわないようにします」と言って帰るお子さんもいるそうだ。

まずはサンゴがどんな生き物なのかを学ぶ。サンゴが生きていると知ってびっくりする人も多いのだとか。

グラスボートに乗って海の生き物を観察。サンゴだけでなく、身近な環境問題についてもレクチャー。

専用のスティックにサンゴを固定する。少し生臭く感じるのはサンゴが生きている証だ。



透明なボートから見える海の様子。サンゴは海のゆりかごとも言われ、枝の間に小さな魚が棲んでいる。

地元の大学院大学とのプロジェクトが発足

これまで、必要に応じて専門家の講習などを受けてサンゴ保全のための取り組みを進めてきたが、さらに活動を深化させるべく、沖縄科学技術大学院大学(OIST)とプロジェクトの準備を進めている。OISTは恩納村に本部を置く大学院大学で、サンゴにおける高度な研究が世界から注目されている。OISTと協働することで環境に強いサンゴの植え付けが可能となり、講座内容もさらに充実することになりそうだ。

エメラルドグリーンに輝くかりゆしビーチ。米海兵隊のボランティアとともにビーチクリーンを行うことも。

「昨今は環境に配慮したホテルを選ぶ傾向が顕著ですが、サンゴ保全の取り組みは、ホテルの付加価値にもつながると思います。また、専門的な知見を取り入れることでサンゴ教室を高度化するだけでなく、ゆくゆくは日本全体でサンゴを増やすことも画策していきたい。サンゴ礁に包まれた沖縄だからこそやれること、やるべきことがあると考えています」(玉城氏)。

沖縄から日本全体へ、これからも地球環境の未来への提言を発信していく。

「サンゴ再生プロジェクト」

白化現象やオニヒトデにより絶滅危機にあるサンゴ再生プロジェクトとして、グループ企業が運営するかりゆしビーチにおいて、宿泊者を対象に「サンゴ教室」を実施。座学で基礎知識を学び、グラスボートでサンゴを観察し、サンゴの苗作り体験を行うことにより、まず自分ができることから始める「気づき」を与える内容。2008年開始当初は植え付けたサンゴ苗の生存率が低かったが、最適な場所の選定、赤土やごみの除去、スティックタイプの苗への変更、漁協と連携し苗を選別することにより、2015年以降サンゴの産卵が確認できるようになった。14年間の活動により累計で6031人(サンゴ苗植え付け数 4265本)が体験した。